三愛 view（ビュー）

発行所：三船病院相談室
創刊日：2003 年 8 月 15 日

〒763－0073
香川県丸亀市柞原町 366
Tel　0877－23－2341
Fax　0877－23－2344

「看護管理システムの導入に向けて」

看護副部長　　川田　知子

近年、看護業務では、直接的な患者ケアの時間に加えて診療録や日誌類など用紙への記録時間が増加しています。また医療環境の質的向上が求められている現代では、記録時間の短縮とその余剰時間の患者サービスへの充当が求められています。

当院の院長は、精神科アウトカム管理システム（Psychoms）を研究している徳島大学の谷岡教授らの科学研究の共同研究者であり、また当院は研究協力病院にもなっています。そこで、徳島大学の研究者らと連携して、当看護部では看護管理システムの共同開発に取り組みました。

当院における看護管理業務では、看護部管理日誌、夜間看護部管理日誌、病棟日誌、外来看護日誌などは用紙を用いて日々の業務を管理していました。これらの時間を少しでも削減し、看護の質向上や直接的ケアに充当できないかと考え、看護関連日誌の記録、病棟から看護部への記録物の運搬、看護部への報告等の業務を改善するための看護管理システム委員会を立ち上げ検討しました。

そこでまず取り組んだことは、日誌関連の業務量調査です。コンピュータ化できる業務についてリスト化し、この中から、6項目をシステム化することとしました。

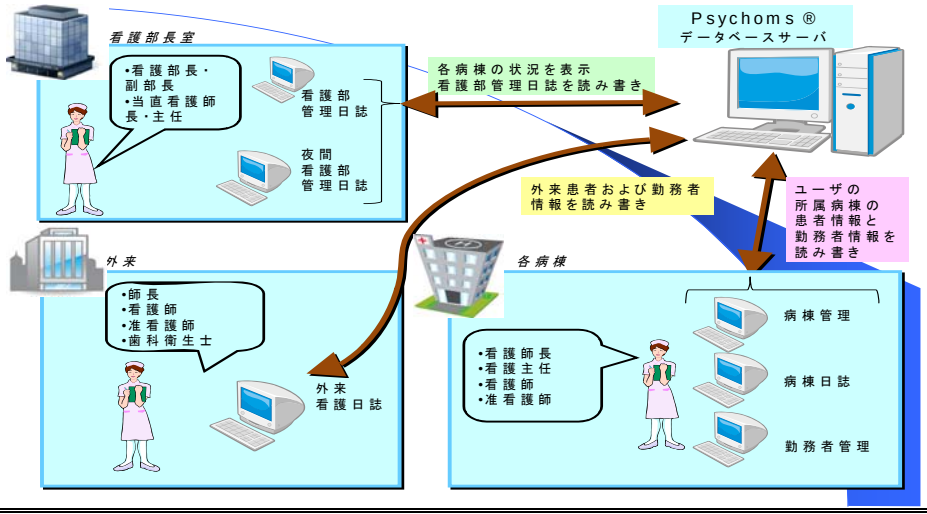
開発過程では看護者が用紙に手書きで記録したり、人員数を電卓で計算したりすることなどを、院外の共同研究者やプログラマーに伝えることは容易でした。しかし、勤務シフトに合わせて患者様・スタッフ数を自動計算したり、転出・転入の自動処理をしたりするための看護管理方法を伝えることは非常に困難でした。プログラム構築の際には、看護師長や看護部長・看護副部長が今までノートに付けたり、頭の中で行っていた看護管理業務の処理をプログラマーが理解できるように言葉で伝えることが難しく、思っているようなプログラムがなされていないというようなことも多々ありました。このようなことをくり返しながら病院側と研究者との間で幾度となく情報のやりとりが行われました。

そして2008年3月の業務内容のリストアップから始まり、プログラムの完成の2009年7月までの17ヵ月をかけて試作システムの導入に至りました。

看護部管理日誌については、一画面で全ての病棟の状況を把握できるようになりました。これまでは、日誌と申し送りによる看護管理業務を行ってきましたが、このシステムでは全ての患者様の看護の必要度や介護度などに関する情報を閲覧できるので病棟の状況を勘案して看護部長や看護副部長が管理業務を行えるようになっています。

このように各病棟及び外来で入力された事項を看護管理者はリアルタイムで把握可能となり、看護管理のための情報の一元化が図られ、看護管理者が記載する日誌情報が少なくなったため記載時間が短縮しました。

今後の検討事項として、看護管理日誌の勤務人数の内訳（看護師、准看護師、助手）を視覚的に捉え、患者様の介護度も分析して適正人員配置を行い、看護サービスの質向上にむけて努力していきたいと思います。



「心理室の業務と役割」

心理室　臨床心理士　　川勝　寛子

病院の心理室における日々の業務といえば、心理検査や心理面接を思い浮かべますが、果たして「検査・面接＝臨床心理士の仕事」としてよいのか非常に難しいところです。検査や面接には臨床心理士の技術は必要ですが、それだけが仕事というには何か足りません。心理士は人を「裏方」で支えることが仕事であり、仕事の成果が出るとしたらそれは相談に来た人の努力の結果であって、心理士の手柄であっては困るのです。心理室の業務はおそらく「心理士という役割の期待を担うこと」ではないかと思います。かつての心理士は専門分野の検査・面接だけを主な業務としたため周囲との連携が取れず失敗した例がありました。周囲の人が持つ「心理士」のイメージと専門的な「心理士」のアイデンティティーが一致せず、組織の中でお互いに緊張関係になった例もあります。現在臨床心理士は「周囲の期待に対して、どのようにして専門性を活かして応えるか」という姿勢で臨んでいます。病院にいらっしゃる人・病院スタッフが、「心理士ならこうしてくれるのではないか」「どんな風に答えるだろうか」という期待に、心理学の知識と技術がどのように利用できるか、ということを考えながら日々対応しています。ひとつの事例について患者様・医師・看護師が手がかりにできるような新しく心理学的な解釈を提供することなどは、変わった見方をするといわれる心理士の役所となるでしょう。一見「なぜ？」と思われるような行動も、心理学的解釈からいくつかの仮説を提示して一緒に考えていくことで、新しい意味を見つけていくことができます。面接の場面では行き詰った人間関係にあらたな展開が生まれたり、納得のいかなかった過去が現在につながったりします。ケース会議などでは、解釈を工夫することで患者様も病院スタッフもお互いに楽になる方法が見つかるときもあります。「話を聞いてくれる人」という期待は病院スタッフからもあり、職員のメンタルヘルスの手助けをする役割も与えられています。現在心理室には臨床心理士が2名だけなので本当に微弱な力ではありますが、病院スタッフとの立ち話でも、できるだけお役に立てるような情報を押し付けがましくなくできるだけ興味を持っていただけるように話すことを心がけています。

大抵の場合心理士は「裏方」で目立たない活動をしていますが、心理教育という役割がはっきりしている場面もあります。三船病院の中では長く続けられている院内断酒会というプログラムがあります。院内断酒会は自助集団・市民活動団体である（社）全日本断酒連盟と連携を持っている病院内のリハビリテーションプログラムです。‘依存症’と呼ばれる疾患は依存物質からの離脱期が終わると、当人にとっては治療を完了したと自己解釈し再発します。そんな時に自助集団の会合に参加することは非常に重要になり回復への道筋をガイドする仲間や自助集団に通じている医療スタッフがいれば病識が得られやすく、再発の防止が可能となります。このプログラムの中では、心理士が院内での身体治療に合わせて、教育内容を多めに用意した上で洞察を促す役割として対応します。決して結論を押し付けるのではなく、病気を否認したがるメンバーに酒害の情報を提供し続けながら、洞察に至るのを促し続けているのです。

三船病院医師からのメッセージ・・・

「三船病院の思い出」

三船病院医師　　図子　義文

私は今年の1月から毎週木曜日、非常勤医師として勤務しています。他の日はさぬき市でクリニックの仕事をこぢんまりとしていますので、大きい病院で勤める木曜日はとてもリフレッシュできる日なのです。

三船病院に勤めるのは実は初めてではありません。1年ほど非常勤で勤めた後、昭和59年から2年間常勤でお世話になりました。あの頃は三船和史院長が2代目の院長として将来の病院のあり方を模索しておられた時期で、駆け出しの私は変革期真っ只中に居合わせることができたのです。5階建ての閉鎖病棟が開放された時は、大きな門がガラガラと音を立てて開いたような感じで、とても感動的な瞬間でした。

月日が経ち、病院は大きく変わりました。新しい病院はとてもいい環境で気持ちよく、住環境は大切だなと実感します。私は週1日だけですが、病院に来ると何かほっとします。それは人と人との触れ合いがあるからだと思うのです。医療の現場ではとても大切なことですね。

ここには私の思い出がいっぱい詰まっています。四国学院大学に転進した西谷さん、心理士の片山さんたちと抄読会を続けたのも楽しい思い出の1つです。何かが初心に帰らせるのか、「こころ」の医療への思いがますます募るこの頃です。

三愛会 トピックス

★第15回家族教室

10月31日(土)「デイケアってどんなところ？」と題して、デイケア課長・国宗聖子精神保健福祉士を講師に家族教室を開催しました。当日は7家族8名の方が参加され、アットホームな雰囲気のためか多くの質問が飛び交い、活発な意見交換ができました。

★第23回相談室セミナー

11月10日(火)「キャラバン隊がやってくる！」と題して、地域移行支援特別対策事業について中讃保健福祉事務所職員と事業を実際に利用した当事者からお話を聞きました。当日は約50名の参加者が集まり大盛況で、皆真剣に耳を傾けていました。

三船病院 委員会活動紹介

「　業務改善委員会　」

委員長　三船病院事務長　藪　康功

平成19年12月から月1回の委員会を開催しています。この業務改善委員会では質の高い医療とサービスを提供するために、日常の業務内容を評価し、業務改善を行い、業務に専念できる環境作りに取り組んでいます。また実践の現場において、資源が有効に活用されるように、組織的な教育活動及び改善に取り組むことを目的として活動しています。

これまでの活動内容としては、病院行事の準備や片付け及び役割分担の見直し、各施設や会議室などの重複使用をさけるための届出、清掃の日を設けて清掃箇所や清掃担当箇所を決め月1回全箇所での清掃実施、残飯やゴミ関係の収集場所を１ヵ所に集約するとともに丸亀市へのゴミ持ち込み回数を減らすなどの業務改善に取り組みました。また、三愛会の業務上の機密や資料持ち出しは基本的には禁止ですが、「外部記憶媒体持出承認願」の様式を作成して、承認により持ち出しができるように業務改善をしました。今後ともムダを省き、効率の良い職場作りを目指していきたいと考えています。

≪委員会≫

- 教育委員会(第１水曜日)
- 個人情報保護委員会(第１水曜日)
- 情報ｼｽﾃﾑ委員会(第１水曜日)
- ｸﾘﾆｶﾙﾊﾟｽ委員会(第１水曜日)
- 地域生活支援委員会(第１水曜日)
- 行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- 人権委員会(第1金曜日)
- 医療安全管理委員会(第２水曜日)
- 衛生委員会(第２水曜日)
- 業務改善委員会(第２水曜日)
- 診療録管理委員会(第2金曜日)
- 薬事審議委員会(第1水曜日)
- 院内感染対策委員会(第3金曜日)
- 栄養管理委員会(第2水曜日)
- 褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- 患者ｻｰﾋﾞｽ向上委員会(第2水曜日)
- 病院機能評価委員会(水曜日)
- 倫理委員会(年1回)
- 医療ガス安全管理委員会(年1回)
- 予算管理委員会(年1回)
- 接遇管理委員会(年2回)
- 診療情報提供委員会(随時)

【介護老人保健施設　福寿荘】

「褥瘡について」

看護師　氏家　光代

褥瘡とは、身体の接触面から受ける圧迫のために抹消血管が閉塞し、組織に壊死を起こすことです。そのため圧迫のないところに褥瘡は発生しないということになります。

褥瘡予防および改善に大切な事の一つに、正確なアセスメントをする必要があります。アセスメントの結果により、褥瘡発生の危険度を知ることができ、それによりケアの実際が見えてきます。

・除圧…体圧分散マットの使用・体位交換などがあります。
・栄養…高エネルギー、高蛋白質サプリメントによる補給も考えられます。
・スキンケア…皮膚の生理機能を良好に維持する必要があります。

褥瘡を予防するためには、これらのことをスタッフ全員が共通認識して、看護・介護していくことが大切です。治療方法としては、まず褥瘡発生原因を徹底して除去することが重要で、基本的には適度な湿潤環境を保ちながら創部を保護し、ドレッシング材、外用薬、外科的切除などの方法があります。しかし、まずは褥瘡を作らないこと、予防が一番重要なことと考えます。

福寿荘において現在著明な褥瘡発生者はいらっしゃいませんが、以上のことに気をつけながら看護、介護を続けていきたいと思っています。

【三愛会コミュニティケアセンター】

生活訓練施設花園荘　施設長　　松原　美和

花園荘は入居型の施設です。入院医療の必要性はないけれども家庭または独立して生活することが困難な精神障害を有する方に最長3年間生活の場を提供し、社会生活に向けて必要な援助、助言を行い社会復帰の促進を図る目的で平成9年4月1日に開所しました。今年で13年目を迎え、現在定員20名のところ16名の方が入所されています。

開所当初の入所者の大半はかなりの長期入院経験者でしたが、最近は自宅からの入所や若い方も増えてきました。入所者の退所先はアパート、グループホーム、共同住居、家庭復帰、高齢者施設等です。当施設の特徴は、入所者ひとりひとりの生活が一様ではないという点と、個別支援に重点を置いているところだと思います。個別援助計画を作成しその方の目指す生活の実現に向け、買い物や料理、就労支援、生活費のやりくり等の生活訓練を行っています。また、グループでは調理実習、生活セミナー（各種情報提供、勉強会等）、ミーティング、健康相談、スポーツ活動、職場体験学習、レクリエーション、家族交流会の活動をしています。近年、丸亀市内の清掃ボランティア活動や菜園活動で自炊に使う野菜作りにも取り組み、活動の幅を広げています。

併設事業として障害者自立支援法による短期入所事業（ショートステイ・定員1名）も運営しており、支給決定を受けた在宅生活者の方が対象となります。一人でいられない、冠婚葬祭による事情等のため利用していただけるようになっています。

時代の流れで国の決定により、生活訓練施設も平成23年度をもって制度が終了することになっています。長期入院の方の退院先として、また社会復帰を支援する施設として、一定の役割を果たしてきたと思います。今後も新たな制度のもと、これまで同様社会的に貢献できるような事業を展開できればと思っています。

≪三船病院からのお知らせ≫

【行事予定】

〇クリスマス会

日時：12月25日（金）　13：30～
場所：三船会館
内容：フォークソング演奏　など

≪編集後記≫

木枯らしが吹き、冬の近いことを感じる今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

今回は看護管理システムの導入についてご紹介しました。日頃の看護業務をシステム化することで時間の短縮化が図られているので、今後は看護の質の向上や直接的ケアの充実に努めていきたいと思います。（三船病院相談室PSW）